



新教科「グローバル探究」に よる実社会の課題解決に向け た資質・能力の育成

奈良県立畝傍高等学校

（ R4～R7研究指定）

研究の背景と目的

- ・「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」（グローバル型）の成果と、社会価値創造への意識醸成という課題
〈研究開発指定前〉

| | |
|------|-----------------|
| 1 年生 | グローバル国語、グローバル英語 |
| 2 年生 | 課題研究 |

〈研究開発指定後〉 「グローバル探究」 新設

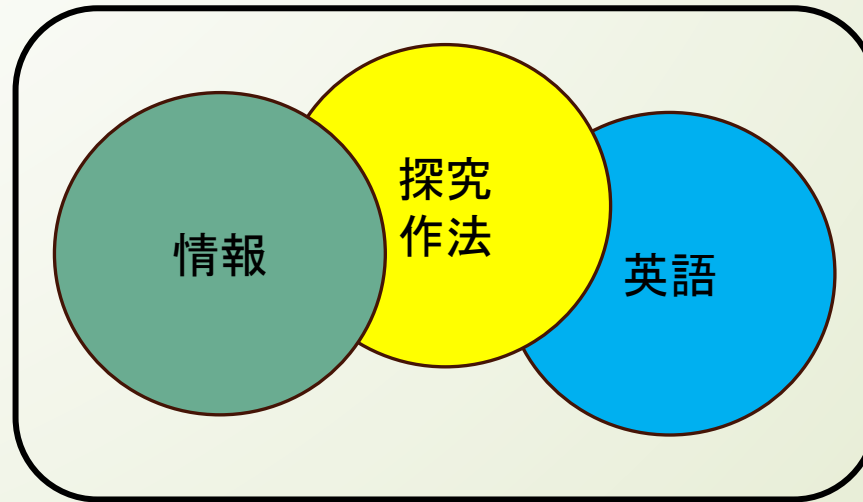
| | |
|------|---------------|
| 1 年生 | 「探究基礎」 |
| 2 年生 | 「課題研究」 「理数探究」 |

教育課程の特例

「グローバル探究」の新設

- ・「情報Ⅰ」の代替としての「探究基礎」（１年生）から「課題研究」「理数探究」（２年生）への体系化

１年生「探究基礎」



２年生「課題研究」「理数探究」

課題研究

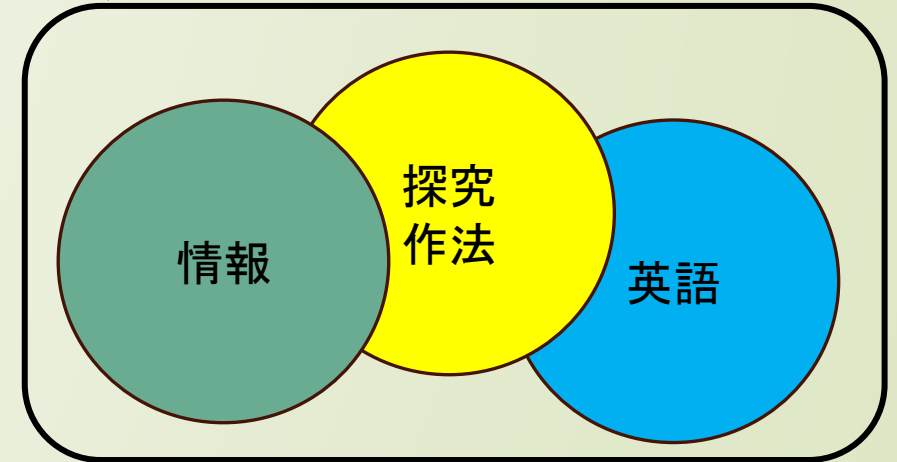
理数探究

「次代を担うグローバルリーダー育成」 4つの資質・能力（概要図に反映）

| 資質 | 定義 |
|------------|--|
| 課題発見・解決力 | 解決すべき、または解決したいと思う課題を自ら見つけ出し、その解決に向けて取り組む力。 |
| 科学的・論理的思考力 | 身の回りの現象に疑問を持ち、客観的な根拠に基づいて仮説を立て、検証を行いながら筋道を立てて考える力。 |
| 対話力 | 他者とのコミュニケーションを通じて、新しい価値や気づきを見出す力。 |
| 情報活用能力 | あらゆる事象と情報を結びつけて考え、ICT（情報技術）等を適切かつ効果的に活用して、問題解決や自分の考えの形成を行う力。 |

1 年生「探究基礎」 探究的な学びの土台づくり

- 3つの分野融合
(情報・探究作法・英語)



- 各分野の有機的なつながりを意識した授業設計の見直し及び修正
パーツの積み上げ ⇒ ゴールイメージから逆算した授業設計
- 探究作法分野の担当者の変遷による指導の深化へ
学年問わず各教科 ⇒ 第1学年の担任（生徒理解や指導の一貫性）

2年生「課題研究」「理数探究」 生徒自らが「課題」を設定

課題研究

理数探究

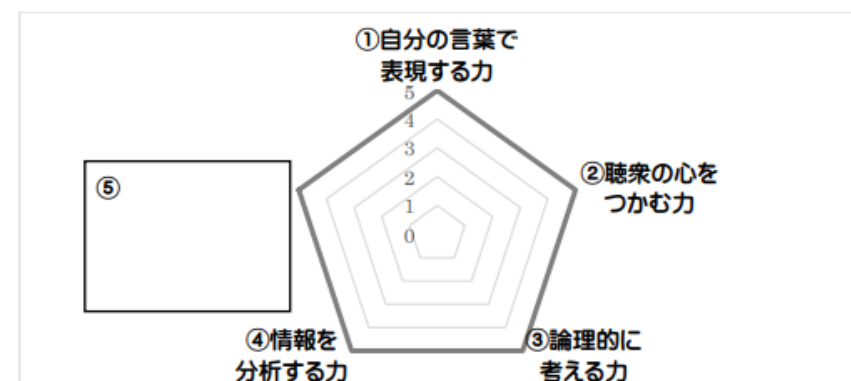
- ・ 興味・関心に基づくテーマ設定

夏期休業中等のフィールドワーク及び実験計画及び実践

中間発表における対話の充実

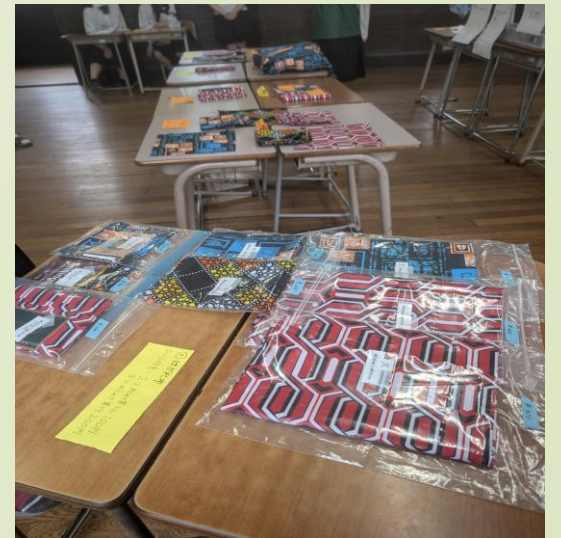
- ・ メタ認知的言語化
生徒自身が見いだす力

2. 中間発表会を終えた今の自分を、下のチャートを使って可視化してみましょう。⑤の箱には、自身の課題研究・理数探究の取り組みを通じて自分が成長できた、意識するようになった点を書いてみてください。



「本物」との出会いと行動変容 生徒の主体性を引き出す仕掛け

- ・ 外部講師招聘（「探究講演会」の実施）
- ・ 海外交流（留学報告会やルワンダ女性支援等）
- ・ 卒業生による探究支援
『探究通信』への寄稿



研究成果①

2年生「課題研究・理数探究」

深化する探究活動及びメタ認知による振り返り

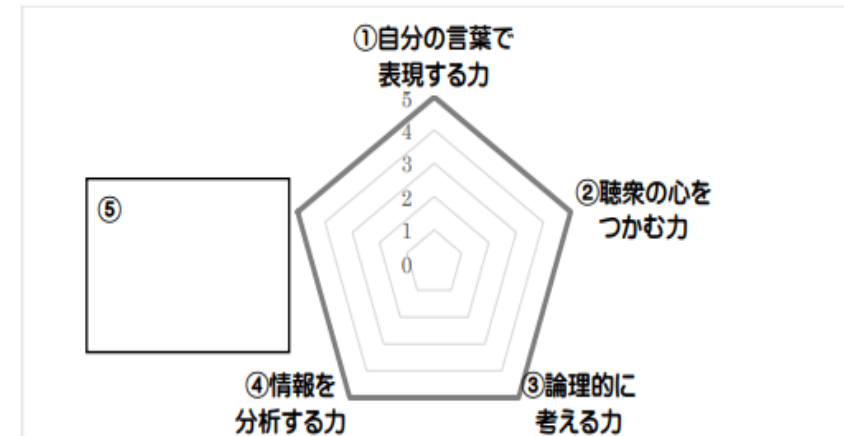
- メタ認知的言語化

生徒自身が見いだす力

- 批判的思考を持つ力
- 目的に戻って考える力
- 計画を変更する力

等

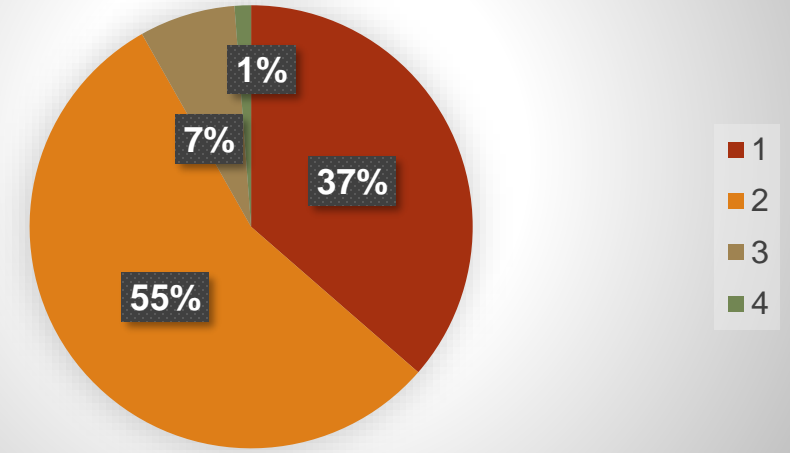
2. 中間発表会を終えた今の自分を、下のチャートを使って可視化してみましょう。⑤の箱には、自身の課題研究・理数探究の取り組みを通じて自分が成長できた、意識するようになった点を書いてみてください。



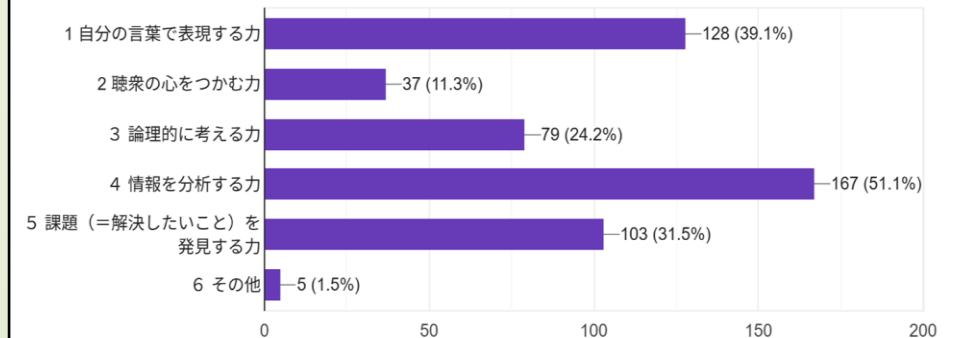
研究成果②

- 意識調査結果より
テーマ設定の強み（探究の原動力）
情報分析力、言語化の伸長の実感
進路意識への波及効果

(3) 自分が「面白い」と思える研究テーマ（課題）に出会えた。

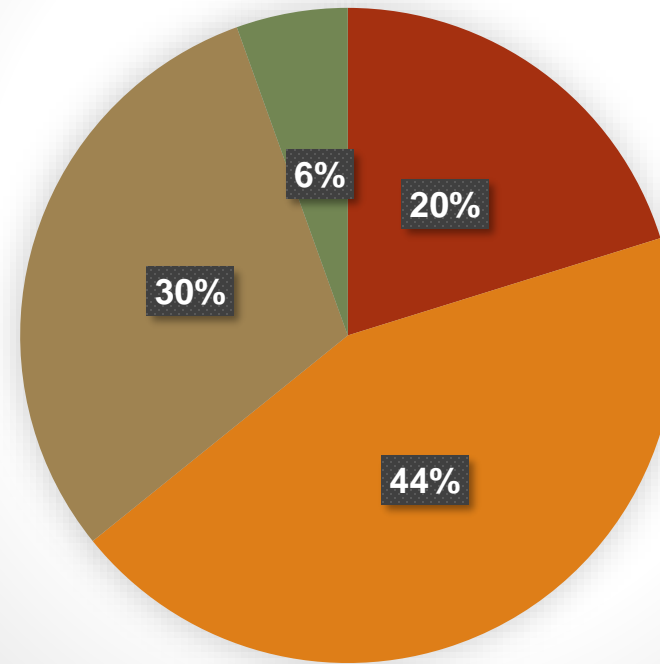


(18) 1年生の時に学んだ「探究基礎」から現在...したと思う力を選んでください。(複数回答可)
327件の回答



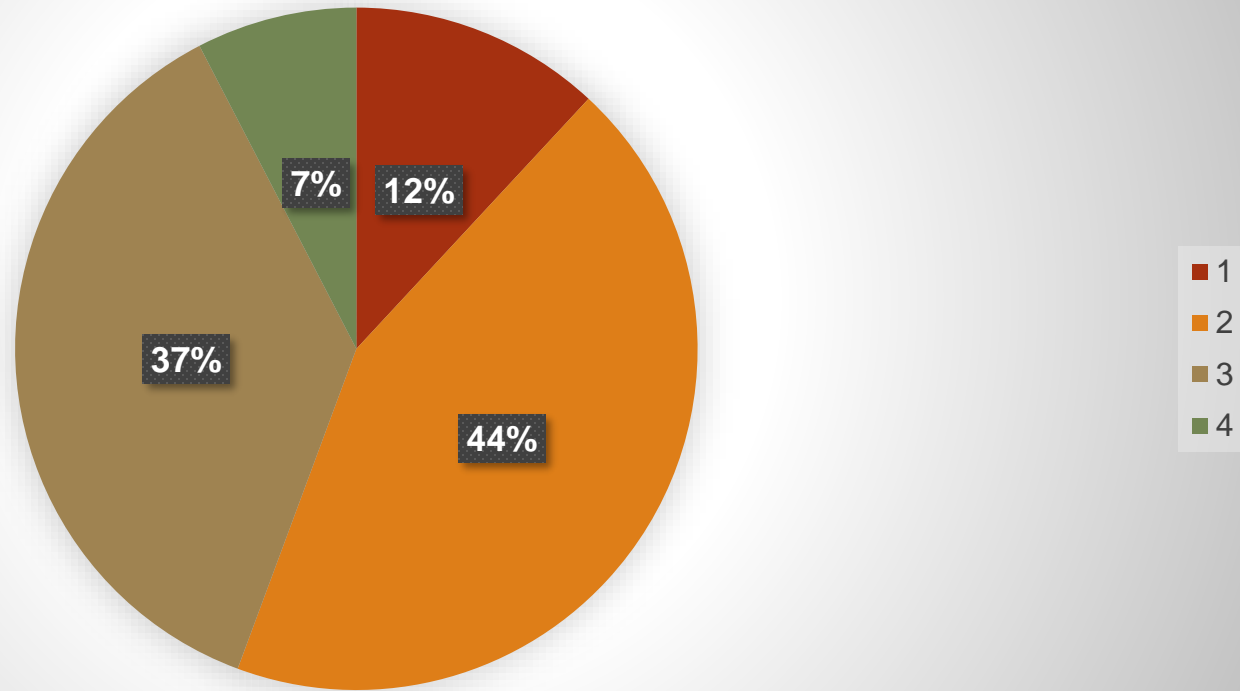
研究成果③さらなる支援が必要な点

(6) 独自のものを創り出そうと工夫して取り組むことができる。



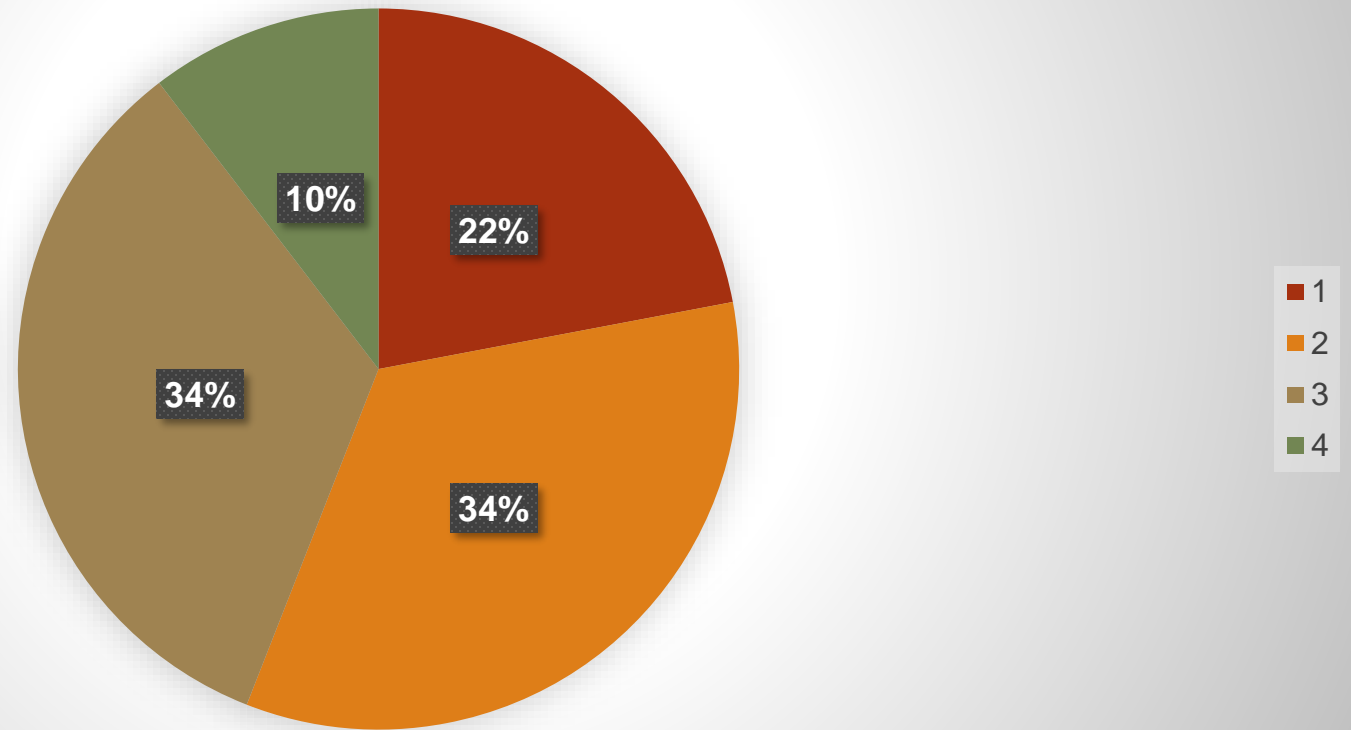
研究成果③さらなる支援が必要な点

(5) 計画を立てて活動することができる。



研究成果③さらなる支援が必要な点

(10) 研究ノートを課題研究・理数探究に活かすことができる。





研究成果④「グローバル」再定義

グローバル＝「地球規模の」
「領域横断・普遍性」へ

- ・ 領域や専門分野を越えた応用力、時代や場所を問わない普遍性

(生徒対象の意識調査より：令和7年12月実施)



生涯にわたる学習基盤としての探究

- 生徒の探究に伴走

「並走する伴走」ではなく「介入する伴走者」

- 教科横断（横のつながり）
教科と探究の接続の強化

- 本質的な問いを生む姿勢を育てる指導体制の継続

奈良県立軟傷高校『グローバル探究』概要図

| 科目 | 時期 | 行事 | 内容の概要 | ア 課題発見・解決力 | イ 科学的・論理的思考力 | ウ 対話力 | エ 情報活用能力 |
|------------------------|-------|---------------|-------------|---|--|--|--|
| 育成したい力の定義 | | | | 解決すべき、解決したいと思う課題を発見し、解決に向けて進む力 | 身の周りの現象に疑問を持ち、客観的な根拠に基づいて仮説を立て、検証をし、筋道を立てて思考する力 | 他者との対話を通じて新しい価値を見いだす力 | 問題を発見・解決をし、自分の考えを形成するために、事象と情報を結びつけて考え、情報や情報技術を適切かつ効果的に活用する力 |
| 探究基礎 | 4月 | 図書館オリエンテーション | 多角的視点の獲得 | | | 聞き手として話し手の意見を理解しようとする姿勢をもつ。 | ウ |
| | 5月 | 学年主任杯 | 合意形成 | 与えられたテーマに関する課題解決に向けた合意形成の意義を理解できる。 | | 話し手として情報や意見を他者に伝えようとする姿勢をもつ。 | |
| | 6月 | 学年主任杯 | 課題発見 | 問題を分解することができる。するべきことの優先順位を可視化することができる。 | | | |
| | 7月 | 学年主任杯 | 課題解決 | 問題を分解することで、するべきことの優先順位を可視化することができ、実際の行動に移すことができる。 | | 聞き手として他者の意見を理解したうえで、話し手として自分の意見を伝えようとする。 | |
| | 10月 | 学年主任杯 | 合意形成 | 与えられたテーマに関する課題解決に向けた合意形成の意義を理解でき、他者と議論することができる。 | | | エ |
| | 11月 | 講演会 | | | 物事を多角的・複合的に見る意義を理解する。 | | |
| | 12月 | | 課題発見 | | 自分の立場を明確にし、ある事柄について賛否を述べることができる。 | | |
| | 1月 | 理数探究選択 | 課題解決 | | 自分の立場を明確にし、ある事柄について根拠を示しながら賛否を述べることができる。 | | |
| | 2月 | | 興味の掘り起こし | 自分の立場を明確にし、ある事柄について根拠を示しながら賛否を述べることができ、他者と議論することができる。 | 課題解決の手法を複数身につけ、他の場面でも活かすことができる。 | 話し手として聞き手の特性を理解し、情報や意見を伝えることができる。さらに、聞き手として話し手の意見を踏まえて議論ができる。 | |
| | 3月 | | | | | | |
| 課題研究 理数探究 | 4月 | テーマ検討会 | テーマ決定 | 自分の好奇心・関心に基づき、疑問点を発見している。 | 問題を解決するための、実現可能な研究手法を検討できる。 | 解決の見通しを立てた課題について、自らの状況にあった手法を探している。 | エ |
| | 5月 | | 情報収集 | | 課題を解決するための、実現可能な研究手法を挙げることができる。 | | |
| | 6月 | | 分析 | 自分の好奇心・関心に基づき、課題意識をもち、漠然とした問いに導くことができる。 | 自身の研究課題を深めるための、実現可能なフィールドワークや実験の計画をたてることができる。 | 解決の見通しを立てた課題について、自らの状況にあった手法を用いながら、研究をすすめることができる。 | |
| | 7月前半 | | 課題の設定 | 自分の好奇心・関心に基づき、課題意識を持ち、「問い」を解決の見通しの立つ課題にすることができる。 | 自身の研究課題を深めるための、実現可能なフィールドワークや実験の計画をたてることができ、事前準備をすることができる。 | | |
| | 7月後半 | | フィールドワークの計画 | | | | |
| | 8月 | | フィールドワーク実施 | | | | |
| | 9月 | フィールドワーク進捗報告会 | フィールドワーク実施 | | 他者との対話が自身の理解につながるという意識をもち、質問や指摘を受けることができる。 | | |
| | 10月 | | フィールドワーク実施 | | | | |
| | 11月 | 中間発表会 | 研究過程の俯瞰 | | 他者との対話が自身の理解につながるという意識をもち、質問や指摘を受けて、自らの主張を再検討する姿勢を備えている。 | 聴衆の特性を理解し、質問を想定した準備ができる。また聞き手として生じた疑問を質問することができる。 | |
| | 12月 | | 研究内容の整理と充実 | | | | |
| | 1月～2月 | 探究成果発表会 | 研究のまとめ | 自身の取り組みと社会及び学術分野の先行研究との意義を見いだすことができる。 | 他者との対話が自身の理解につながるという意識をもち、質問や指摘を受けて、自らの主張を再検討することができる。 | 聴衆の特性を理解し、質問を想定した準備ができる。質問の意図を正しく理解し、回答することができる。また聞き手として生じた疑問を質問できる。 | |
| | 3月 | 振り返りレポート作成 | 研究過程の総括 | 研究の過程で自分が気づいたり獲得したことを、これからの自分の学びの深化に役立てることができる。 | 研究内容に深い関心をもち、自己に関わる問題として考察することができる。 | | |
| グローバル 〈普遍的〉〈領域を越える〉 | | | | 個別の課題から普遍的な課題へと拡張、既存の価値観にとらわれず解決に向け歩む力 | 身近な問いを起点に、複雑・複合的な社会課題を構造的に理解し、解決の方向性を見出す力 | 普遍的な問いへと高め、新たな価値創造に向け合意形成する力 | 情報や情報技術を活用し、既存の枠にとらわれない解決策を見いだす力 |